

平成 29 年度 U25 YOC (ヤングオフィシャルズキャンプ) 参加報告書

報告者：九州ブロック・鹿児島県 林 佑亮

- 日 程：平成 29 年 8 月 11 (金・祝) ～13 日 (日) (3 日間)
- 場 所：埼玉県上尾スポーツ総合センター研修棟，上尾市上尾運動公園体育館ほか
- 参加者：各ブロックからの推薦者 (JBA 審判部選考) 30 名 (男性 21 名，女性 9 名)
- スケジュール・研修内容

【1 日目】8 月 11 日 (金) 於：上尾スポーツ総合センター研修棟，上尾南高校体育館		
時 間	講義内容	担当講師
13：30～	開講式 審判部長挨拶 講師紹介，オリエンテーション	安西氏 阿部氏
13：20～	講義① 研修棟会議室 FIBA 新レギュレーション，3PO メカニクス	上田氏
15：20～	フロアトレーニング(～16:30)上尾南高校体育館 3PO の動き (トスアップ，リードの動き，ローテーション)	安西氏，山崎氏 佐藤氏，加藤氏
19：00～ 20：50	講義② 研修棟会議室 ガイドライン	宇田川氏
【1 日目要点・所感】		
講義①		
<ul style="list-style-type: none">・ 2PO と 3PO は別物である。・ ボールサイドをストロングサイドにする。・ ローテーションは、テンポ良くシャープに！・ ローテーション時は，“スキャン・ザ・ペイント”。→①ペイント内をスキャンしながらローテーション② (ペイント内不在) C サイドをスキャンしながらローテーション・ T, L は，アウトサイドインで，45° のアングルをキープ。・ L-TT は，作らない。L-C-C からローテーションを完成させることは問題ない。・ インパクトが大きいものは，必ず判定する。・ 声を使ってゲームに参加する。→ゲーム，クルーをリードする。		
フロアトレーニング		
<ul style="list-style-type: none">・ L は，ローテーションの時走らない。45° を保ってスキャンザペイントしながら。・ ジャンプボールのボールが低い。高く，まっすぐあげること。・ エリアの分担をしっかりと。		
講義②		
<ul style="list-style-type: none">・ ガイドライン：ルールブックの中から抜粋したもの。→何を根拠として判定するのかを明記。		

- ・ガイドラインを作るにあたって・・・クリーンなゲームにするにはどうしたらよいか？という観点から作成した。
- ・Foulの基準となるもの責任：Defがリーガルガーディングポジションを占めたか。
権利：シリンダ（を越えた触れあいではないか。）
- ・悪い手（ハンドチェック）は、チープなFoulとは区別。
- ・スクリーン：止まっている，両足着いている，シリンダ内がリーガル。
- ・ブロッキング・チャージング
 - ・Defを見る場合の基準：Defがリーガルガーディングポジションを占めたか。
 - ・インパクトのある触れあい→明らかにOffに責任がない場合には，Def Foul
 - ・最後のステップを踏みきった後にコースに入ったのか（Block）先に入っていたのか。
- ・プロテクト・シューター
 - ・正当なジャンプ→降りる権利がある。Defが侵さないこと。
 - ・ショットアフターファウルのチームファウルフリースローの処置に注意が必要。
- ・アンスポ
 - ・タクティカル廃止も検討。
 - ・肘を使うプレー→危険，首から上にヒットは，UF
 - ・Foulを吹く際に，選手に寄っていかない。→選手にやられるリスク。
- ・フェイクを考えすぎて，Defファウルを逃さないように。
- ・トラベリング
 - ・Japan女子が苦勞した。明らかな軸足の踏み替え，ずれ，突き出しの遅れ。
 - ・ミニ，中学の段階からトラベリングをしっかりと吹く。

【2日目】8月12日（土）於：上尾市上尾運動公園体育館ほか

時 間	講義内容	担当講師
9：30～	3PO実技（1班講師：吉田氏，山崎氏，平原氏，加藤氏） 4人ローテーションにて実施 ①元石川 VS 鴻巣（林，長谷川，相澤，慶野）※女子 ②元石川 VS 都立駒場（林，長谷川，相澤，慶野）※女子 ③小山台 VS 都立駒場（二反田，山田，林，慶野）※男子 ④小山台 VS 都立足立（二反田，山田，林，慶野）※男子	山崎氏 山崎氏 加藤氏 加藤氏
19：00～	講義③ 研修棟会議室 プレゼンテーション，3×3レフェリーについて	加藤氏
19：40～	映像研修（映像解析の方法，実際の試合映像を用いた解析）	上田氏
20：40	閉講式	宇田川氏

【2日目要点・所感】

実技研修

- ・Cは、コートの中に入る。サイドラインの外にいると壁を感じてしまう。
- ・ローテーションのイニシアチブは、L。思い切って、行くと決めたら行く！
- ・クローズダウンをしておくことが、スムーズなローテーションに繋がる。
- ・Cサイドの高い位置にボールがいて、CがTに上がった方がいいケースでは、Lが早くローテーションをして、Cを押し上げてあげる。
- ・Lは、大回りせずにまっすぐ入ってくる。ボールがミッドライン付近の場合には、クローズダウンポジションに入ってくる。4秒で早く。CもC間を早く移動。
- ・プレスDefの場合には、Cと2メンで。Lは、セットアップポジションに入ってOK。
- ・レポートのシグナルは、何をやめさせたいのか、何を伝えたいのかで選択。
例：ハンドチェックなのか、プッシュ（押していること）なのか
- ・ハンドチェック以外は、OffのRSBQが崩れているかが重要。0.5～1秒遅れて鳴らす。
- ・Cの位置が高くなるように。簡単に上がらない。
- ・Cは、（特に）ペイントの状況を見て、細かくポジションチェンジ。
- ・セカンダリ・エリアのもので確実に確認できたものについては、プライマリーエリアを尊重し、遅れてコールする。あくまで、ヘルプ리카バリー。
- ・いいアングルでとらえることが、いい判定に繋がる。
- ・ゲームクロック、ショットクロックの管理をしっかりとする。
- ・声を使うこと。声を使うことで、解決できること、防げる誤りがある。
- ・レポートのプレゼンテーションは、止まってゆっくりと分かりやすく。

講義③

- ・プレゼンテーションは、判定と同じくらい重要。
- ・言葉の中身で信頼する7%、声の質38%、ボディランゲージ55%
- ・マニュアルで決まっているシグナルは、マニュアルどおりに。
- ・「しまった」と思った瞬間も、自分の判定を大事に、オンザコートでは演じてプレゼン。

映像研修

- ・映像解析のポイント：次に何を具体的にするのかを考える、見つける。
→なぜそうなったのか？どうしたら改善できるのか？
- ・当たり前前に鳴ったものでも…誰が？どの位置で？を考えることができる。
- ・何かが起こる→その前に戻る→どうすればよかったか。（メカ等）

閉講式

- ・どんなレベルに行っても戻るのは基本。
- ・いい位置、いい角度、いい景色で。
- ・いろんな方々への感謝の心を忘れない。

【3日目】8月13日(日)於：上尾市上尾運動公園体育館		
時 間	講義内容	担当講師
9:30～	3PO 実技 (1班講師：吉田氏，山崎氏，平原氏，加藤氏) 4人ローテーションにて実施 ①鴻巣 VS 鷹の台 (長谷川，慶野，運道，林) ※女子 ②元石川 VS 都立駒場 (長谷川，慶野，運道，林) ※女子	加藤氏 山崎氏
【3日目所感】 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの声の意識は良くなってきた。 ・ファウルレポートについては，人混みを割けるための工夫が必要。 ・レフェリーによる遅延を防ぐ。→スムーズな進行を心がける。そのために声を使う！ ・判定には，思いっきりを持って，迷わずに。 ・女子のゲームは，コーチの意図，指示が絶対である。 →いくらファウルを取り上げてもベンチから指示がなければ辞めないのが女子のゲーム ファウルが収まらない以上は，吹き続けるしかない。 ・ハーフタイムとインターバル以外の時間は絶えず何かを考え続ける。 →クローズダウン，キックバック，クローズダウン，ローテーション… ボールの動きに合わせて動くことを頭の中で常に考える。 自分が見るべきところはどこかを常に頭で考えておくこと。 ・チームファウルが4つになったら，Next Bonus を伝えることでミスを防げる。 		

○総 括

今回，本研修に参加させて頂き，同世代の FIBA レフェリーを志す多くの仲間と出会い，世界の舞台を経験された多くの講師から助言等を頂き，非常に貴重な経験をさせて頂いた。ブロックを越え，全国各地から集まるレフェリーとの3日間は私にとって非常に刺激的であった。

今回の研修では，メカニクス，プレゼンについての内容が多かったことが印象的であった。それには，判定と同じくらいこれらの要素が必要であるということがある。正しい判定のためには，正しいメカニクスが必要であり，正しい判定に分かりやすいプレゼンがあることで説得力が生まれるということを身をもって経験できた。

今回の研修で習得したものをより濃いものにし，今後の審判活動に生かすとともに，このことをより多くの審判員へ還元しなければならないと感じている。

最後に，本研修の開催にあたり，JBA の高森さんを始め，JBA 審判部，審判委員会の皆様には事前の連絡，準備から当日の運営に至るまで細かい配慮を頂きましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。また，推薦していただきました九州ブロック長，本県審判委員長にも感謝申し上げます。本当にありがとうございました。